

開催地名：広島県広島市	
開催日時	令和2年2月1日(土) 14:00～15:00
開催場所	JMSアステールプラザ 中ホール
語り部	吉田 亮一 (宮城県仙台市)
参加者	広島市中区自主防災会等の市民 約500名
開催経緯	<p>当市では、地震想定について、広島県地震被害想定調査を参考として、過去の地震被害や活断層の分布状況から6ケースを選定している。現在、この想定に基づき、地震発生時における市民がとるべき対応について様々な広報や訓練、研修等を行っている。しかし、更なる地域防災力の向上のため、平時から地域における自助・共助の重要性について周知し、継続的に危機意識を持って災害へ備えておくことが必要である。</p>
内容	<p>(1) はじめに</p> <p>私は、これまでの人生の中で3度の大地震を経験しており、現在YY防災ネットより依頼を受けて、年間30回程度、全国で防災講座を実施している。東日本大震災時は、仙台市太白区茂庭台5丁目地域の指定避難場所の責任者を17日間努めた。そこで、今回は地震が起こる前に備えておくことと避難所運営を中心に話したい。</p> <p>(2) 自助の大切さ</p> <p>将来起こるであろうと言われている大地震に備えて、事前に住民一人一人が、災害に対しての知識を蓄え、発災後は共助へとつながるように意識していただきたいと思う。そして、災害に対して危機感を持って想定以上の備えをしていただきたい。「大丈夫だ」「まさか、来るとは」等という考えも捨てていただきたい。万全の備えが必要である。</p> <p>(3) 事前の備えと避難所運営</p> <p>東日本大震災発生から遡ること約5年。平成18年に、当時幼稚園の理事だった私は、月に1度義務付けられていた幼稚園での防災訓練をベースにして、地域防災を立ち上げ、防災活動をスタートした。地域の防災マニュアルを自分たちで作成し、各役割の分担も年ごとに持ち回りで行った。こうすることによって、各住民に全ての役割を担えることができた。そして、毎年、全ての方を対象とした総合防災訓練を昼間、夜間と2つの時間帯で大地震が起こったことを想定して行った。更には、平日の日中働いている大人の協力を抜きにした小・中・高生を中心とした訓練も実施した。</p> <p>以上のような活動を5年間続けていたことによって、東日本大震災発災後の対応や、地域内における各避難所での対応は比較的スムーズにいったのではな</p>

いかと思っている。その他、避難所で避難してきた方々が円滑に過ごせるよう、様々な対策も施した。その中の主なものを紹介する。

「O157対策」

ダンボールの上にじかに座るのではなく、ブルーシートの下にダンボールを敷くようにする。嘔吐した方がいたら、新聞紙でブルーシート上の嘔吐物を取り除いた後、塩素系の洗剤でシートを拭く。ダンボールの上に直接嘔吐されると、ふき取る際に紙の繊維が飛び散ることで、菌が飛散する恐れがある。

「半島型避難スペース」

通常の設定方法であれば、ただ単にブルーシートを敷いただけで終わりであるが、それだけだと、外に出たり、食事をもらいにいったり、トイレに行ったりするたびに、奥側にいる方々は人を跨ぐ必要があり、さらには誰もが入ってこれるため、防犯上の問題もある。そこで、ブルーシートを1枚当たり、2メートル×4メートル幅に切り、それらのシートの間隔を1メートルずつ開けて、人を跨がずにどこからでも出入りできるように体育館に配置した。体育館の両サイドの壁際には体育で使うマットを敷き、その上に跳び箱の一番上の段の部分置いて、足を伸ばして座れるスペースも確保した。このスペースは、特に高齢者の方々に好評であった。

「まきの備蓄」

発災後は停電して電気が使えなくなるので、薪を備蓄しておくことにより、すぐに火を起こすことができ、防寒対策や食事の提供に便利である。



開催地より

東日本大震災の前に、必要な準備をしっかりされていたことで、あれだけの大地震が起ころうとしてもしっかり対応できたというお話を伺い、非常に参考になった。今後の防災活動に役立てていきたいと思う。